

宇都宮商業高等学校（定時制）

地域連携教員	大宮 裕治 教諭	地域連携教員歴	3年
--------	----------	---------	----

1 コーディネーターについて

宇都宮東地区自治会連合会の会長が、コーディネーターの役割を担ってくれている。きっかけは、3年前、これまで近くの小学校の運動場で行っていた連合会主催の地区運動会が小学校できなくなってしまい、宇都宮商業高等学校の運動場を借用に来たことであった。このことを機会に顔見知りとなり、互いに連携をとるようになった。そのため、近隣の自治会の回覧板に学校からのお知らせ等を入れてもらえるようになり、地域への情報発信が簡単にできるようになっている。

2 コーディネーターとの連携の実際

○田川(きぶな)清掃活動

9年前から、定時制課程の生徒と教員で、学校の近くを流れる田川の清掃活動を行っている。3年前に連合会長とのつながりができたことで、自治会を通して地域の方々の参加を呼びかけるようになり、現在は地域のボランティアと生徒・教員と一緒に清掃活動を実施している。

○学校祭での連携

全日制課程と合同で行われる学校祭において、食品の販売を行う際、地域の方々が手伝いに入ってくれている。

○地域連携教養講座の開催

小・中学校で行われている地域連携活動の実際を知り、高等学校でもやれることはないかと考えた地域連携教員の発案から、平成27年度より実施している講座である。地域の方々を対象に、教員の専門性や特技を生かした教養講座を年3回実施している。平成27年度は、商業雑学や日光の自然・植生に関する講座等を実施し、自治会を通して地域の方々の参加を呼びかけたところ、地域に住んでいるOB等の参加があった。また、講師以外の教員も地域の方々と一緒に受講しており、教員の地域連携への理解を深める機会ともなっている。



田川（きぶな）清掃活動の様子

3 成果と課題

○成果

・地域側の窓口が明確になり、地域に声をかけたいとき、どこに話せばよいか明らかになった。コーディネーターの役割を果たす地域の窓口があることで、地域との連携がスムーズにできるようになり、活動が充実し、生徒と地域住民が交流する機会が少しずつ増えるようになった。定時制での教育は、よく知られていないために先入観を持たれることもある。地域住民と生徒と一緒に活動し、直接交流することは、定時制の教育や生徒について地域の理解を深め、先入観をなくすためにも重要であると考えられる。

・これまで、学校の情報はホームページから発信してきたが、地域の高齢者やインターネット環境が整っていない家庭の方にはなかなか情報が届かなかった。自治会との連携が図れるようになったことで回覧板からの情報発信ができるようになり、これまで情報を届けられなかった方々に情報を届けられるようになった。学校の良い情報を多く発信することで、地域の学校理解につながっている。

○課題

地域とともにある学校として地域連携への取組は大切な部分である。しかし、小・中学校と異なり、地域の方にとっての「自分たちの学校」とならない高等学校は、地域と心の距離があると感じる。そのため、教員は自分の学校の地域がはっきりせず、地域連携のイメージが浮かびづらいと考える。今後、教員の理解をさらに深め、窓口となる教頭や地域連携教員以外の教員とコーディネーターを初めとする地域の方々とのつながりを作り、さらに連携を図っていけるかが課題である。

4 その他

○社会に出る準備としての地域連携

人にはそれぞれの考え方や多様な生き方があるということを知ることは、生徒一人一人が自分に合った進路を選択する上で大切なことであると考えます。また、社会に出てから必要とされる人間関係形成能力を身に付けるためには、様々な人々と交流し、一緒に活動することが必要である。生徒が社会で活躍するための準備段階として、地域連携を推進していけたらよいのではないかと思います。